

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 12 号



「Matilda A. Spencer 宣教師が米国から持参したリード・オルガン」

Spencerは1878年来日。以来青山学院の女子教育機関で教授し（青山女学院の院長や理事も務めた）、1923年の関東大震災の直後帰国する際に、教え子である飯久保冬（校友、元教員）にこのオルガンを託した。その後飯久保から、大磯に建てられた女子部校友会の施設「青山さゆり荘」に寄贈され、1990年11月その青山さゆり荘が閉鎖になるのに伴い、青山学院に寄贈されたものである。米国メイソン&ハムリン社製であるが、現在オーバーホールを行っているため、秋には130余年前の音色が甦ることであろう。

資料センター所蔵資料紹介

讚美歌 氣賀健生 — 2

館山海軍航空隊と青山学院水泳部合宿所（下） 佐藤 隆一 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内 — 8

「明治期出版のプロテスタント系讃美歌集」

青山学院大学名誉教授 氣賀健生

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料について、今回は主として明治期に出版された讃美歌集を紹介致しましょう。

明治時代は日本におけるプロテスタント・キリスト教の黎明期ですから、今日では最早稀覯本に属するような珍しいプロテスタント系の讃美歌集がありますので、それらから順次紹介してゆきましょう。

まず1907（明治40）年版ローマ字讃美歌、『Sambika』、教文館及び警醒社発行（写真①）。これは極めて珍しい編集で、特徴的なことは、各讃美歌とも歌い出しの2～3小節のみ譜がついています。皮表紙小型の立派な装丁で、A Union Committee編となっていますが、この委員会なるものがどのようなものであったかは不明です。全483曲に十戒、使徒信条、主の祈りすべてローマ字、巻末にこれもローマ字で、KimigayoそしてBengijo koko ni osamu. Honsho no uta ni arazu.とあります。この「君が代」と「便宜上此處に収む、本書の歌に非ず」という但し書きは、明治30年代頃の讃美歌集から見られるようになり、昭和20年の敗戦まで続きます。これがこのようなかたちで讃美歌集に収められるようになったいきさつについては、未だハッキリわかっていませんが、推察するに、明治期の中ば頃から公然と頭をもたげてきた反キリスト教的思想状況に対する教会側の対応だったと考えては如何でしょうか。

ローマ字讃美歌はもう一冊あり、1887（明治20）年Tokyo版ですが、『Kirisutokyo Seikashu』（Hallowed Songs）というタイトルです。Methodist Episcopal Mission for the use of Japanese Churches, Translated and published by C.S.E.となっています。このC.S.E.が何をさしているのか今のところ未調査です。小型、楽譜なし、247曲を収録しています。

この他超稀覯本としては、『畧譜附基督教聖歌

集』があります。耶蘇誕生1895（明28）年第四月、米国加州サクラメント府日本人美以教会内、出版部紙版印行とあって、ガリ版印刷の日本語版です。247曲、頌栄および主の祈りと十戒が収められ、M.C. Harrisのサインがあります。M.C. Harrisは初期の北米メソジスト教会の日本ミッション監督であった人物で、青山学院（当時の東京英和学校）キャンパスの宣教師館に住み、その墓所は青山墓地にあります。

次にこれも極めて珍しいものを二つあげておきます。いずれも英語版です。『Hymnology in Japan』by Rev. Geo. Allchin, Osaka. “The Past History and the feasibility of Having a United Hymnal”とあって、Presented to the Aoyama Theological School, by the author Jan. 10th 1932となっています。39頁の小さなものですが、オールチンは日本の讃美歌史上重要な人物です。もう一つは、『The Church Hymnal for Churches and Mission Schools』であり、J.C. Cowen編162曲、歌詞のみ、全部英語です。

次に『譜附基督教聖歌集』（写真②）。耶蘇降生1886（明治19）年5月再版、美以美教会雑書会社、日本横浜印行とありますが、初版はいつであったか確かなことはわかりません。235ページ、247曲が収められ、10曲の頌栄が含まれ、For use in Divine Worshipとあり、J.C. Davisonの序文（英文）がついています。彼はマクレーと共に日本に派遣された最初の宣教師の一人で日本の讃美歌集成に多大の貢献をした人物であって、彼が最初に編集したといわれる1877年初版の讃美歌が本書の初版であると考えられますが、残念ながら、その版は当資料センターには保存されていません。

この他、ほぼ同様のものが数十点当資料センターに所蔵されていますが、その中で、明治28年7月改正増補とある『譜附基督教聖歌集』（写真③）



写真① Sambika (本文)



写真② 譜附基督教聖歌集



写真③ 譜附基督教聖歌集

は日本メソヂスト出版舎とあり、讃美歌改正委員会とあって、著作者小方仙之助、J.C. Davison、山田寅之助、発行者本多庸一となっています。即ちこの頃には、メソヂスト派の讃美歌が確立したと考えられます。全422曲、この中には「君が代」もその他3曲と共に国歌として含まれています。そして1903（明治36）年版以後は全く変わっていません。

さて、日本で初めてのエキュメニカル（超教派）の讃美歌として普及したのが1903（明治36）年版の『讃美歌』でありました。浸礼教会、メソヂスト教会、一致教会、組合教会、日本基督教会そして、基督教会と、当時の主要な教派の代表が集まって作り上げたものと推定されます。これは1900（明治33）年4月に大阪で開かれた福音同盟会（会長・本多庸一）に於て、共同の讃美歌の必要性が痛感され、ここで125首が選定され、翌明治34年8月に共通讃美歌として発表されたものと思われます。

一体それまでの日本では共通の讃美歌集としてまとまったものは全くなく、奥野昌綱を以て日本の讃美歌の開拓者とするのが普通でした。彼は明治6年に63篇の讃美歌集をつくり、明治16年に123篇を以てその改訂版をつくっていました。1888（明治21）年に『新撰讃美歌』と銘うって60部だけ印刷され、翌々年の1890年11月に『讃美歌』として世に出されたものが、エキュメニカルな讃美歌としては最も古いのではないかと考えられます。これは植村正久、奥野昌綱、松山高吉が編纂し、組合・一致教会が中心となり、湯浅治郎が

スポンサーとなって一部60銭で市販されました。福音同盟会は計画段階からこの企画に賛同し、これを推しています。エキュメニカルな讃美歌の企画としては、実は一致・組合両教会による計画が既にあり、明治19年に試作として289曲（うち246番以下は頌栄）がオールチンの指導のもとに編集されています。

ところで、1907（明治40）年の『讃美歌』三版では多くの讃美歌が既にその後の版のものとは変わっていません。459曲（460番以下は頌栄）収められていますが、例えば418「主われを愛す」、460「あめつちこぞりて」のように、その後今日の編集にかかるものにまで歌いつがられています。但し、「今日まで」ということは、1954年版の讃美歌（一般に各教会で讃美歌一篇と呼んでいるもの）までを意味します。現在日本キリスト教団はじめ各教派で一般に使われていると思われる『讃美歌21』では、必ずしも歌いつがれた讃美歌を収録してはいません。『讃美歌21』については評価が相半ばして定まっていないのが現状でしょう。現象として“ことばの衰弱”の現代的状態を端的に象徴していると見られる『讃美歌21』は、登場して20年近くになりますが、未だ定着とは言えないでしょう。これは各教会、キリスト教主義学校での大きな問題ではありますが、ここでの問題からそれるので、いづれ機会を待ちましょう。

当資料センターにはカトリック、正教会、英国国教会系の讃美歌もかなり所蔵しており、プロテスタント系の讃美歌もまだまだありますが、今回は一応以上までとし、稿を改めたいと思います。

館山海軍航空隊と青山学院水泳部合宿所

——アジア・太平洋戦争開戦をめぐって——〔下〕

高等部地理歴史科教諭 佐藤 隆一

1941年（昭和16）12月8日、日本海軍機動部隊は、アメリカ海軍主力艦隊が集結するハワイ真珠湾を奇襲して大打撃を与え、ここにアジア・太平洋戦争の幕が切って落とされた。

前号で紹介した青山学院水泳部合宿所に近接していた館山海軍航空隊基地は、この真珠湾攻撃のための実戦を想定した最終訓練が行われたところである。同基地は、その滑走路が地形的に海からの西風を強く受けるように設計されており、特に空母の短い甲板の距離を想定した戦闘機の離発着訓練には最適な飛行場となった。パイロットの高度な操縦訓練は同基地とその周辺で展開された。これは館山湾を真珠湾に見立てた想定のもので、基地を起点にして海と半島の谷間をルートとしての戦闘機による飛行訓練が主体となっていた。また、同時期には館山海軍砲術学校で、南洋諸島の奇襲作戦を想定したパラシュートによる降下訓練もさかんに行われた。

青山学院水泳部合宿所における旧制中学部の水泳合宿は1941年夏まで継続して行われたが、この時期にはすでに近接する飛行場などの軍事施設では実戦さながらの訓練が展開されるという、戦時体制一色の様相であったと考えられる。こうしたなかで、米・英との開戦時期の同年12月に海軍は急きょ青山学院に対して水泳部合宿所を譲渡するよう、要請したのである。

さて、水泳部合宿所の譲渡と最も関連が深いと考えられる軍事施設が、合宿所の敷地に隣接する赤山地下壕である。この地下壕は総延長約2Kmの大規模なものであり、巨大な燃料タンク基地なども付属している。ところが、埋め立て地の飛行場と一体となったこの地下壕がいつつくられたかについては、関係資料がほとんどないために、これまでほとんど不明確なままであった。

ただ、館山市教育委員会をはじめとする従来の主な説明では、基本的に地

下壕がつくられた時期ははっきりとはわからないとしながらも、本土決戦を念頭において1944年（昭和19）から掘り始められたのではないかと想定している。その理由としては、①大規模な地下壕が1941年のアジア・太平洋戦争発生以前につくられた例はないとされていること、②軍部が本格的に防空壕をつくりはじめたのは1942年（昭和17）より後であること、③1944年以降に館山海軍航空隊の兵士たちによって壕が掘りはじめられたという複数の証言があること、などをあげている。

①②③については、大本営の移設計画を立てて工事を進めていた松代大本営（長野県、1944年10月着工）、慶応大学日吉キャンパス内につくられた連合艦隊総司令部（日吉台地下壕、神奈川県、1944年8月着工）、中島飛行機の地下秘密工場となった浅川地下壕（東京都、1944年9月着工）など、確かに一連の枢要な地下要塞は本土決戦に備えて敗戦間近い時期に集中してつくられている。しかし、②については一般論の範囲を出るものではなく、赤山地下壕の工事開始時期を確定するに足る決定的な根拠とはなり得ないと考える。一方、③については複数の兵士の証言ということで、時期を特定する根拠となる可能性はあるのではないかなと思う。しかし、この証言とは相矛盾する証言もある。それは、この地下壕が1930年代半ば頃から極秘に建設され、掘った土砂は海岸の埋め立てに使用されたとする地元の方々の証言である。これを④とする。しかし、今のところ③も④も確たる記



青山学院水泳部合宿所前における旧制中学部生徒と教職員の集合写真 1940年（昭和15）8月2日
（成瀬写真館撮影、青山学院資料センター所蔵）

録に基づくものではなく、仮説の域を出ていない。

ここでキーポイントとなるのが、1941年12月の海軍の強い要請による地下壕に隣接する青山学院水泳部合宿所の譲渡である。③のように、仮に赤山地下壕の工事が敗戦間近い1944年から始められたとすれば、合宿所の譲渡がなぜ3年前の1941年末に行われたのか、なぜ青山学院が急に立ち退かなくてはならなかったのか、辻褄が合わない。疑問は深まるばかりである。

そこで、2015年（平成27）4月5日（日）に安房文化遺産フォーラムが主催し、赤山地下壕を管理する館山市の豊津ホールにおいて、赤山地下壕近郊に長い間居住されている大勢の方々にお集まりいただき、筆者も出席して、「青山学院水泳部合宿所と赤山地下壕をめぐる問題」についての聞き取り会を行った。その結果、複数の方々から以下の貴重な証言（⑤⑥）が得られた。

⑤青山学院水泳部合宿所は、宿泊用の寮と調理場と風呂場が合わさった建物とがあり、赤山の崖側には池があり、金魚などの魚がいたこと。合宿所は老夫婦の方が管理していたこと。合宿所は現在の館山市営プールのエリアにあったこと。合宿所のエリアには赤山地下壕の出入り口が設けられていたこと。海軍への譲渡後、しばらく合宿所は空き家状態であったが、その後兵舎として使用されたこと。戦後間もなく寮は取り壊されたが、調理場兼風呂場は残ったこと。しかし、1950年（昭和25）の館山市営プールの造成により、この建物も解体されたこと。

⑥赤山には、1930年（昭和5）頃に方位測定所が設けられたこと。赤山近辺の住宅街では、1938年（昭和13）から海軍による本格的な土地の買収が行われ、立ち退いた家が多かったこと。同年頃から、赤山地下壕が海軍により使用されていたらしいこと。軍の管理下にあるとはいえ、当時の子供たちは比較的自由に地下壕に入ることを許されたこと。赤山の上部には燃料タンク基地が設けられ、ここから埋め立て地の飛行場に向かってさかんにトロッコにより燃料などの物資が下ろされていたこと。このトロッコが動き出したのは1941年からであること。

⑤と⑥については、符合するいくつかの材料がある。例えば、⑤の兵舎については、1943年（昭和18）頃の作成と推定される赤山を中心とする軍

事施設を示した地図（防衛省防衛研究所所蔵）には、ちょうど青山学院水泳部合宿所の位置に



現在の赤山地下壕（写真提供：安房文化遺産フォーラム）

「館空五六兵舎」「兵員防空壕」と記されており、兵舎とこれに面しての地下壕の出入り口があったことを確認できる。また、⑥については、赤山の燃料タンク基地跡は現在も残されており、ここから海辺に向かってトロッコのレールが敷かれていた道筋（現在はアスファルト道路）は斜度が均一なスロープをなしており、飛行場に近づいた道路との交差点には踏切遮断機のコンクリートの基礎台が残存している。

これらの内容から、赤山地下壕は開戦時の1941年末にはすでに稼働していた可能性が極めて高くなり、海軍が機密を守り戦争を遂行するためにも、隣接する青山学院水泳部合宿所の買収は急ぐ必要があったものと考えられる。よって、赤山地下壕は前掲の松代大本営など本土決戦に備えて急ぎ工事が進められた一連の地下壕とは性格を異にし、開戦当初から飛行場と一体化して機能する要塞として、戦前のかかなり早い時期に掘削が始められたと考えたい。

また、1944年以降に掘削が開始されたとする③の証言については、おそらくは敵機の空襲や本土決戦を想定して、赤山地下壕とは別の防空壕を近辺につくる工事ではなかったかと思われる。

いずれにしても、赤山地下壕掘削の開始時期については、依然として不明瞭な点が多い。今後は確たる史料の発見やさらなる多数の証言が得られることを期待したい。

さて、館山の豊かな大自然と地元の人たちとの温かい交流のなかで培われ受け継がれてきた青山学院の水泳合宿も、戦争遂行の国策によりあえなくその終わりの日を迎えた。ふりかえってみれば、生徒たちや教職員らが館山で過した平和で楽しい日々の数々は、その後の日本社会の激動の歩みのなかですっかり埋もれてしまった、ささやかな歴史の1ページというべきであろう。

〔追記〕安房文化遺産フォーラム代表愛沢伸雄先生には、現地へのご案内を含めて、並々ならぬご教示をいただいた。心から御礼を申し上げたい。

2014年度後期利用状況

1. 展示見学・資料閲覧 ()内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
展示見学者数 (2014年11月11日オープン)				255		675		71		33		189		1,223	
資料閲覧者数		20	(12)	21	(18)	15	(18)	22	(23)	21	(16)	24	(18)	123	(105)
閲覧者の区分	本学学生	0	()	0	(3)	1	(2)	2	(1)	0	(1)	0	()	3	(7)
	現教職員	8	(6)	8	(3)	1	(3)	5	(3)	5	(2)	6	(3)	33	(20)
	旧教職員	8	(5)	11	(6)	8	(6)	11	(9)	13	(9)	8	(8)	59	(43)
	校友	0	()	0	(1)	0	(3)	0	(2)	0	()	3	(1)	3	(7)
	他大学教員	0	()	0	()	2	(2)	0	(5)	0	(2)	1	(5)	3	(14)
	牧師	2	()	0	()	0	(1)	0	()	0	()	0	()	2	(1)
	一般	2	(1)	2	(5)	3	(1)	4	(3)	3	(2)	6	(1)	20	(13)
利用の目的	教会史編集	2	()	0	()	0	(1)	0	(1)	1	(1)	0	(1)	3	(4)
	学校史編集	3	()	0	()	3	()	4	()	4	()	0	()	14	()
	著述・論文作成	8	(5)	16	(6)	10	(7)	12	(14)	10	(12)	12	(6)	68	(50)
	伝記資料調査	1	()	1	(3)	0	(1)	2	(2)	2	()	2	()	8	(6)
	記録類の調査・研究	4	(3)	6	(7)	1	(3)	5	(2)	1	()	6	(7)	23	(22)
その他	4	(4)	2	(2)	4	(6)	5	(5)	4	(3)	5	(4)	24	(24)	
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	9	(7)	8	(10)	5	(10)	15	(15)	3	(12)	12	(13)	52	(67)
	メソジスト教会関係 (B)	2	(2)	0	(3)	1	()	2	(1)	7	(2)	1	(3)	13	(11)
	英語・英文学関係 (旧F)	0	()	1	(1)	0	(1)	1	(2)	0	()	0	()	2	(4)
	明治期キリスト教関係 (G)	0	(1)	0	(2)	0	(2)	0	(1)	2	(1)	1	(3)	3	(10)
	一般分類図書	2	(1)	0	(3)	0	(5)	2	(4)	2	(1)	0	(2)	6	(16)
	その他	8	(2)	13	(1)	10	(1)	8	(2)	9	()	10	()	58	(6)
資料の形態 (閲覧点数)	図書	37	(13)	9	(51)	23	(36)	82	(49)	65	(51)	54	(26)	270	(226)
	マイクロフィルム	1	(2)	0	(2)	0	()	0	(1)	9	(1)	0	(3)	10	(9)
	写真 (含ネガ)	0	()	0	(2)	1	()	39	(4)	1	()	12	(1)	53	(7)
	アルバム	0	(1)	2	()	17	()	0	(3)	0	()	0	()	19	(4)
	個人資料ファイル	0	(1)	0	(1)	1	()	0	(3)	0	(2)	13	(1)	14	(8)
	ビデオ・DVD等	0	()	0	()	0	()	0	(1)	0	(6)	1	(71)	1	(78)
	その他	9	(1)	15	()	9	()	9	()	10	()	12	()	64	(1)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. レファレンス ()内は前年度の数

件数		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
質問者の区分		9	(18)	6	(9)	2	(6)	11	(14)	10	(9)	5	(2)	43	(58)
質問者の区分	学生	0	(1)	0	(1)	1	()	1	(1)	0	()	0	()	2	(3)
	現教職員	7	(11)	4	(5)	0	(3)	4	(4)	5	(4)	2	(1)	22	(28)
	旧教職員	0	(1)	0	(1)	0	()	1	(2)	0	()	1	()	2	(4)
	校友	0	(1)	0	(1)	0	()	0	(2)	0	()	1	(1)	1	(5)
	一般	2	(4)	2	(1)	1	(3)	5	(5)	5	(5)	1	()	16	(18)
質問内容	文献所蔵調査	0	(3)	1	(2)	1	()	2	(3)	3	(2)	1	(1)	8	(11)
	写真所蔵調査	2	(1)	2	(3)	0	()	2	(1)	3	(1)	1	()	10	(6)
	事項調査	4	(13)	1	(4)	0	(4)	7	(8)	3	(6)	3	(1)	18	(36)
	その他	3	(1)	2	()	1	(2)	0	(2)	1	()	1	()	8	(5)

※質問内容は重複回答あり

3. 日誌抄



10月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室 (6回)
- ・大学名誉教授、年史編集のため来室 (1回)
- ・大学名誉教授、寄贈のため来室 (1回)
- ・学内教員来室6名 (年史編集、展示準備ほか)
- ・学内職員来室6名 (資料閲覧ほか)
- ・来客6名
- ・展示見学希望来室 一般 1名 職員 1名
- ・2014年度第3回資料センター運営委員会開催
- ・第11、12回展示検討小委員会開催
- ・150年史編集実務担当者打ち合わせ

11月

- ・大学名誉教授、原稿作成のため来室 (11回)

- ・大学名誉教授、150年史編集のため来室 (1回)
- ・学内教員来室5名 (年史編集ほか)
- ・学内職員来室6名 (資料閲覧ほか)
- ・来客14名
- ・11月11日 (火) 資料センター展示ホール再開
- ・大学図書館において明治期キリスト教関係図書、一般分類登録作業開始

12月

- ・大学名誉教授、原稿作成のため来室 (7回)
- ・大学名誉教授、150年史編集のため来室 (1回)
- ・学内教員来室2名 (年史編集、資料閲覧ほか)
- ・学内職員来室4名 (資料閲覧ほか)
- ・学生来室3名 (資料閲覧ほか)
- ・来客8名
- ・初等部3年生4クラス、授業のため展示見学
- ・国内外へクリスマスカード送付
- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』11号納品、発送

1月

- ・大学名誉教授、原稿作成のため来室（6回）
- ・大学名誉教授、150年史編纂のため来室（6回）
- ・学内教員来室2名（年史編纂、資料閲覧ほか）
- ・学内職員来室4名（資料閲覧ほか）
- ・学生来室2名（レポート作成のため）
- ・来客2名
- ・150年史編纂さゆり会の方々インタビュー
- ・「武士の娘」のNHKの番組作成に関する閲覧、打ち合わせ（3回）

2月

- ・大学名誉教授、原稿作成のため来室（6回）

- ・大学名誉教授、150年史編纂のため来室（6回）
- ・学内教員来室1名（年史編纂、資料閲覧ほか）
- ・学内職員来室2名（資料閲覧ほか）
- ・来客8名

3月

- ・大学名誉教授、原稿作成のため来室（8回）
- ・大学名誉教授、来室（3回）
- ・学内教員来室2名（年史編纂、資料閲覧ほか）
- ・学内職員来室4名（資料閲覧ほか）
- ・「武士の娘」のNHKの番組制作に関する閲覧、打ち合わせ
- ・学内図書館担当者研修会11名展示ホール見学

2014年度後期受入れ

資料

(学内部署からの資料は除く)

寄贈(抜粋)

- 羽坂勇司(校友・元理事長)様より、『訓点 新約全書』明治17年1月、ボンボニエール 2点 1907年(次頁写真①)、ほか8点
- 佐藤隆一(校友・高等部教諭)様より、青山学院工業専門学校についての記事(『地下秘密工場～中島飛行機浅川工場』より抜粋)
- 女子短期大学同窓会様より、『青山学院女子短期大学同窓会設立40周年記念 同窓会会報第1号～第40春号(1974～2014年)』DVD
- 松尾精文(大学名誉教授)様より、校友・永瀬隆関連資料CD
- 徳永勉(校友)様より、「青山学院の思い出」徳永勉著
- 社会福祉法人全国社会福祉協議会様より、『人-わが師わが友』阿部志郎(校友)著 2014年
- 雨宮剛(校友・大学名誉教授)様より、『ラジオ深夜便』2014年11月号、寄贈者がラジオ放送「ラジオ深夜便」に出演した時のCD、ほか2点
- 植草しづ(校友)様より、青山学院大学体育会ハイキング部90周年山行報告 2014年、ほか1点
- 阿部志郎(校友)様より、懐中時計(青山学院初等部創立20周年記念に初等部から元院長阿部義宗に差し上げたもの)(次頁写真②)
- 國澤洋次郎様より、「看護婦を附添はせヴェール女史愛の送還」昭和16年5月15日付新聞記事切り抜き
- 松井和男様より、『朗らかに笑え』松井和男著 講談社 2014年
- テレビ東京様より、「ありえへん∞世界」2014年11月4日放映のDVD(校友・勝田銀次郎の紹介あり)
- 田添禧雄(元職員)様より、『ウェスレー・メソジスト研究14』日本ウェスレー・メソジスト学会 2013年 教文館
- 生島義英様より、『日仏交流』第9号(2003年)、10号(2004年)、生島家墓誌のコピー
- 三輪修三(大学名誉教授)様より、青山学院大学卒業記念クッション 1986年
- 吉岡勝見(校友)様より、「青山学院大学グリーンハーモニー合唱団 OBニュース」50号及び第60回記念定期演奏会チラシ 2014年10月
- 羽生基雄(校友)様より、青山学院初等部第四回終了式次第(コピー資料)昭和25年3月
- 伊藤信夫様より、「青山学院大学硬式野球部2014年東都大

学野球秋季リーグ戦 試合状況・結果」伊藤信夫編

- 大学文学部英米文学科同窓会様より、会報『Aoyama Sapience』第32号 2014年12月
- 大場弘一(校友)様より、保護者宛中等部卒業式招待状、青山祭御招待状 1962年11月ほか12点
- 匿名希望の方より、ジョン・ウェスレー肖像画2点(メゾチント・1779年、銅版画・1755年)
- 一般社団法人キリスト教保育連盟様より、『キリスト教保育125年—「日本キリスト教保育百年史」からの動向—』2014年11月
- 聖ヶ丘教会様より、『40周年記念誌 共に支えあって』社会福祉法人小諸学舎 2012年2月
- TBSテレビ様より、TBSテレビ『報道の魂・記者たちの眼差し～12.8開戦の日に』DVD(校友勝田銀次郎の紹介あり)
- 菊地美代子(元初等部教員)様より、『ぼくのアメリカ見学記』西村義人著 中央公論 1965年7月
- 伊藤文雄(校友・大学名誉教授)様より、東都大学野球優勝記念ネクタイピン、スポーツタオル 青山学院大学野球部 1989年、ほか7点
- 堀峰生様より、「米山梅吉の経営思想—三井信託創業時における米山の経営構想を中心に—」堀峰生著(『経営哲学』第11巻2号抜刷 2014年8月)
- 奥山初枝様より、青山学院神学部制作レコード「クリスマス賛美歌 もろびとこそぞりて、御民の王なる御子は」(制作年不明)(次頁写真③)及び同CD
- 岸甫一様より、『150枚の画像が語る 幕末・明治の国際都市ハコダテ』新函館ライブラリ編 2015年2月
- 猪狩満信(校友)様より、第50回記念大会 青山学院大学対東北学院大学 総合定期戦 バスケットボールの部 しおり、ほか2点
- 鎌倉市中央図書館様より、『鎌倉市図書館100年のあゆみ』ほか1点
- 図書館とともだち・鎌倉事務局様より、『旧鎌倉図書館と私』その一(2015年2月)、その二(2015年3月)
- 中川静子様より、本多庸一書軸「人苟非更生必不能見神之國」約翰傳3章3節
- 他大学・学校 年史・紀要類

購入

- 『英語入門』西村正三郎著 普及舎 明治20年(次頁写真④)
- 『地質鉱物学標本目録』(株)島津製作所標本部 昭和6年
- 『豫言者以賽亜 第壹巻』水上梅彦著 メソヂスト出版舎 明治27年
- 『公娼制度の破壊』賀川豊彦著 基督教婦人矯風会大阪支部 大正12年
- 『公娼全廃教育運動 十一』財団法人日本基督教婦人矯風会編 昭和2年

- 『公娼存廃問題と時論—全廃論と存娼論との対照—』川崎正子編 婦人新報社 大正15年
- 『公娼廃止より婦人参政権まで』久布白落実著 日本婦人参政権協会 大正13年
- 『婦人公民権とは何か』久布白落実著 日本婦人参政権協会 大正13年
- 『公娼問題と群馬県』森川抱次著 廓清会婦人矯風会連合 大正15年
- 『日本メソヂスト教会婦人伝道東部第七回年会記録』昭和2年
- 婦人矯風会関係資料、計9点
- 『安息日学科児供の学ひ』第1期3月分・4月分 雑書會社 明治23年
- 『近古史談註解』(上下合本) 大槻清二編 明治15年
- 『校訂近古史談』大槻磐翁著 大槻修二校訂 明治12年 1～4合本
- 「イエス・キリストの降誕」版画 川上澄生(校友)制作年不明(写真⑤)
- 『志摩聰句集』志摩聰著 俳句評論社 明治43年(川上澄生の挿絵)
- 『光 帝国禁酒会関東部』1号～4号 帝国禁酒会関東部 明治22年(写真⑥)
- 『英学捷徑 九體伊呂波』橋爪貫校訂 青山堂 明治4年
- 『安息日の話』米国遣傳教使事務局 明治12年

- 『基督の神たることを信する理由』田村直臣著 基督教書類會社 明治37年
- 『キリストの再降臨』末世之福音社 明治41年、明治36年
- 『ウェブスター氏スペルリング独案内』大瀬平吉訳 明治18年
- 『布哇成功者実伝[復刻版] 布哇編 第26冊』布哇日々新聞社編 平成27年
- 『福島移民史：ハワイ帰還者の巻[復刻版] 布哇編 第41冊』高橋莞治著 福島ハワイ会 平成27年
- 『ウェブストル氏スペルリング独案内』大場景明訳 文魁堂藏版 明治33年
- 『經濟往来 六月号』第2巻第6号 日本評論社 昭和2年(米山梅吉の論文あり)
- 『商業・交通編 現代産業叢書 第三巻』安川雄之助ほか著 日本評論社 昭和4年(米山梅吉の論文あり)
- 『欧米貧兒美談』根本正訳著 教文館 明治35年
- 『娼娼か存娼か』丸山要著 賣笑婦問題研究會 大正14年
- 『総合的基督教』松村介石著 警醒社書店 明治32年
- 『基督教は如何な教乎』三谷種吉著 教文館 明治33年
- 『CHIYO'S RETURN [復刻版]』清岡千代野著 文生書院 平成19年
- 『Collected English Works of Etsu Inagaki Sugimoto』1～5(復刻修正版)、エディション・シナプス 平成25年



写真①ボンボニエール



写真②阿部義宗旧蔵懐中時計



写真③神学部制作レコード



写真④英語入門標題紙



写真⑤イエス・キリストの降誕



写真⑥光 1号

お知らせ

校友・杉本鉞子の生涯がドラマとドキュメンタリーで放映されます！

8月11日(火) 21時～22時50分 NHK・BS1スペシャルにおいて、海岸女学校、東京英和女学校(いずれも青山学院の前身校)を卒業した杉本鉞子の波乱に満ちた生涯が「戦後70年 武士の娘 鉞子とフローレンス～日米をむすんだ奇跡のベストセラー～」(仮題)として放映されます。ぜひご覧ください。

青山学院資料センター利用案内

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立ちください。

公開時間 月～金曜日 ▼9:30～17:00(入館は16:30まで)
土曜日 ▼9:30～13:00(入館は12:30まで)

*夏期間<8月3日(月)～9月16日(水)>の公開時間:

月～金曜日 ▼9:30～16:00(入館は15:30まで)

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。

閲覧時間(いずれも昼休み11:30～12:30)
月～金曜日 ▼9:30～17:00 土曜日 ▼9:30～13:00

*夏期間<8月3日(月)～9月16日(水)>の閲覧時間:

月～金曜日 ▼9:30～16:00

●休室日

日曜日・国民の祝日・クリスマス・年末・年始・その他青山学院が定める休日:

一斉休業期間<8月6日(木)～8月12日(水)>、8月19日、26日
の水曜日および8月15日、22日、29日、9月5日、12日の土曜日

●問い合わせ

TEL 03 (3409) 6742 FAX 03 (3409) 8134

メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp

青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。

こちらをご覧ください。

<http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/>

資料センター運営委員

院長(職務上)	梅津 順一	高中部(高)	教員1名	佐藤 隆一
常務理事1名(職務上)	杉村 佐壽	高中部(中)	教員1名	伊藤 秀行
学院宗教部長(職務上)	シュエ士戸 ポール	初等部	教員1名	窪田 靖
大学図書館長(職務上)	三村 優美子	幼稚園	教員1名	川島 祥子
大学 教員1名	清水 信行	総局長(職務上)		伊豆 一男
女子短期大学 教員1名	谷本 信也	資料センター事務長(職務上)	傳農 和子	

資料センタースタッフ

資料センター事務:

専任 2人

パートタイム 3人

『青山学院150年史』編纂事務:

有期職員 1人

パートタイム 2人

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 12号

2015年7月21日

青山学院資料センター編・発行

